



|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望 報告書  |
| Author(s)        | 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部; Advancement of Recurrent Education Division, Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University |
| Description      | 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2026年1月28日に行った「リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望」に関する報告書。   |
| Issue Date       | 2026-03   |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/99178">https://hdl.handle.net/2115/99178</a>   |
| Type             | report  |
| File Information | 2025_RecurrentEducation_SummitReport_1.pdf  |





# リカレントサミット in 札幌

## ～地域共創型プログラムの実践と展望

■開催日時：2026年1月28日(水)

■会場：北海道大学 札幌キャンパス オープンイノベーションハブ エンレイソウ メインラウンジ

## 報告書





## Contents

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ■ 概況                      | 02 |
| ■ 開催要領                    | 03 |
| ■ 開催プログラム                 | 05 |
| 【セッション1】                  |    |
| * 開会挨拶                    | 05 |
| * 事例報告：地方先進プログラムの展開       | 05 |
| 【セッション2】                  |    |
| * ライトニングトーク               | 10 |
| * 事例報告：道内のリカレント教育・地域連携の状況 | 10 |
| 【セッション3】                  |    |
| * ワークショップ                 | 13 |
| * 閉会挨拶                    | 16 |
| ■ 広報・PR                   | 17 |

## 概況

「リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望」は、地域と連携したリカレント教育・社会人教育の取組を全国的な視点から共有し、今後の地域共創型プログラムの展望について議論することを目的に2026年1月28日（水）、北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウにて開催しました。

今回は3つのセッションにて行われました。セッション1では、はじめに、山本文彦北海道大学理事・副学長と杉森正敏愛媛大学理事・副学長があいさつ、その後事例紹介が行われました。事例紹介は北海道大学、金沢大学、熊本大学、愛媛大学と広島大学がそれぞれ行なっている、4つのプログラムが紹介されました。それぞれの大学が行なっているプログラムの特徴や強みを知る機会になりました。セッション1の参加人数は、42名でした。

その後、休憩を挟んで、午後からはセッション2とセッション3が行われました。セッション2では、最初に「ライトニングトーク」として、今回のサミットに参加いただいた全ての組織から一言、活動内容を紹介いただきました。トーク終了後、「道内のリカレント教育・地域連携の状況」をテーマに、事例紹介が行われました。事例紹介では、札幌市まちづくり政策局ユニバーサル推進室、北海道国立大学機構・小樽商科大学、北海道大学医学研究院、北海道大学高等教育推進部、北海道大学広報・社会連携本部社会連携部門から5つの事例が紹介されました。北海道が行なっているリカレント教育を、道外からの参加者に紹介する機会になりました。セッション2の参加者は、43名でした。

セッション2が終了後、一旦、休憩に入り、参加者は用意されたコーヒーや菓子などでくつろぎました。休憩終了後、セッション3が行われました。セッション3は、「地域共創型プログラムの現在地／私たちはどこへ向かう？」と題したワークショップを行いました。6つのグループに分かれた参加者は、各人の活動の内容や抱えている問題点を共有しました。その後、大学だからできる地域連携のあり方や、地域課題解決に向かうためのリカレント教育についてディスカッションを深めました。最後には各グループからディスカッションの内容を発表いただきました。ワークショップの参加者は32名、見学者は5名でした。

当日は前日までに降った大雪の影響で参加人数の減少が心配されましたが、北海道大学の教職員をはじめ、リカレント教育や地域連携にかかわる、秋田大学、岩手大学、愛媛大学、岡山県立大学、小樽商科大学/北海道国立大学機構、金沢大学、熊本大学、島根大学、帝京大学、鳥取大学、奈良教育大学/奈良国立大学機構、広島大学、合わせて13大学と2国立大学機構の関係者が参加しました。また、札幌市や企業等からの参加もありました。サミットの発表内容は随時、グラフィックファシリテーションを用いてまとめました。

## 開催要領

### 【開催の目的】

地域と連携したリカレント教育・社会人教育の取組を全国的な視点から共有し、今後の地域共創型プログラムの展望について議論することを目的とします。

地方には人口・経済や自然環境などの多様な課題があり、地方大学にはそれらに対応する人材育成を担う責務があります。一方で、より実情にあった育成プログラムを実現するには大学だけでは十分ではありません。大学と自治体・地元産業界と連携することが必然となっています。

このような地域共創型プログラムは、全国の地方大学で実践が積み重ねられつつありますが、それらの課題や先進的事例を共有する機会は十分ではありませんでした。

そこでリカレントサミットでは、北海道大学をはじめ、熊本大学、金沢大学、愛媛大学による取組事例の紹介や、道内におけるリカレント教育・地域連携の取組報告、ならびにワークショップを通じて、地域共創型人材育成の現在地と今後の方向性を考える機会とします。

### 【開催概要】

- 名 称 リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望
- 開催日時 2026年1月28日（水） ◇開場 9：00 ◇開会 9：30 ◇終了 17：00
- 会 場 北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウ（札幌市北区北11条西8丁目）
- 開催内容 **【セッション1】**

#### ◇開会挨拶

##### 【出演】

- \* 北海道大学理事・副学長 山本 文彦
- \* 愛媛大学 理事・副学長 杉森 正敏

#### ◇事例報告-地方先進プログラムの展開

- 1) 北海道大学「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」他  
北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部 部長 川本 思心
- 2) 金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」  
金沢大学 学長補佐（地域共創担当）/能登里山里海未来創造センター教授  
篠田 隆行
- 3) 熊本大学「未来創造塾/共創学環」  
熊本大学 副学長（地方創生・地域連携担当）/研究開発戦略本部  
地域連携戦略部門長 金岡 省吾
- 4) 愛媛大学「地域創成イノベーター育成プログラム」  
愛媛大学 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター 副センター長  
正本 英紀

##### 講評

島根大学 地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン部門長 准教授 丸山 実子

#### 【セッション2】

- ◇ライトニングトーク（参加者からの一言活動紹介）

## ◇事例報告：道内のリカレント教育・地域連携の状況

- 1) 札幌市×北大連携事例ー「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップの開催  
札幌市 まちづくり政策局 ユニバーサル推進室 推進担当課長 松原 卓也
- 2) 自治体様との連携の深化に向けたプラットフォームの設立について  
北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門 特任准教授 中村 健吾
- 3) ユニバーサル・ユニバーシティ構想とHumaniorー“両利き”のリカレント教育に向けて  
北海道国立大学機構/小樽商科大学大学院 商学研究科 准教授 泉 貴嗣
- 4) データで見る北海道の医療AIリカレント教育：  
医療AI開発者養成プログラム（CLAP）受講状況  
北海道大学 大学院医学研究院 特任講師 唐 明輝
- 5) 学生と地域が共に成長する大学モデルを考える：川喜田二郎「移動大学」から今日の大学まで  
北海道大学 高等教育推進機構 講師 鄭 漢模

## 【セッション3】

◇ワークショップ前半：地域共創型プログラムの現在地

◇ワークショップ後半：私たちはどこへ向かう？

## ◇閉会挨拶

【出演】

\*しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム 会長 板垣 義男

\*広島大学 参事 榎原 晃二

## 【司会進行】

北海道大学 大学院教育推進機構リカレント教育推進部 特任教授 種村 剛

## 【グラフィックレコーディング】

株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

- 参加人数 43名
- 主催 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部、  
しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
- 共催 愛媛大学 地域協働推進機構・広島大学 地域連携部
- 協力 北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門
- 運営事務局 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部



# 開催プログラム

## 【セッション1】

### 【開会挨拶】

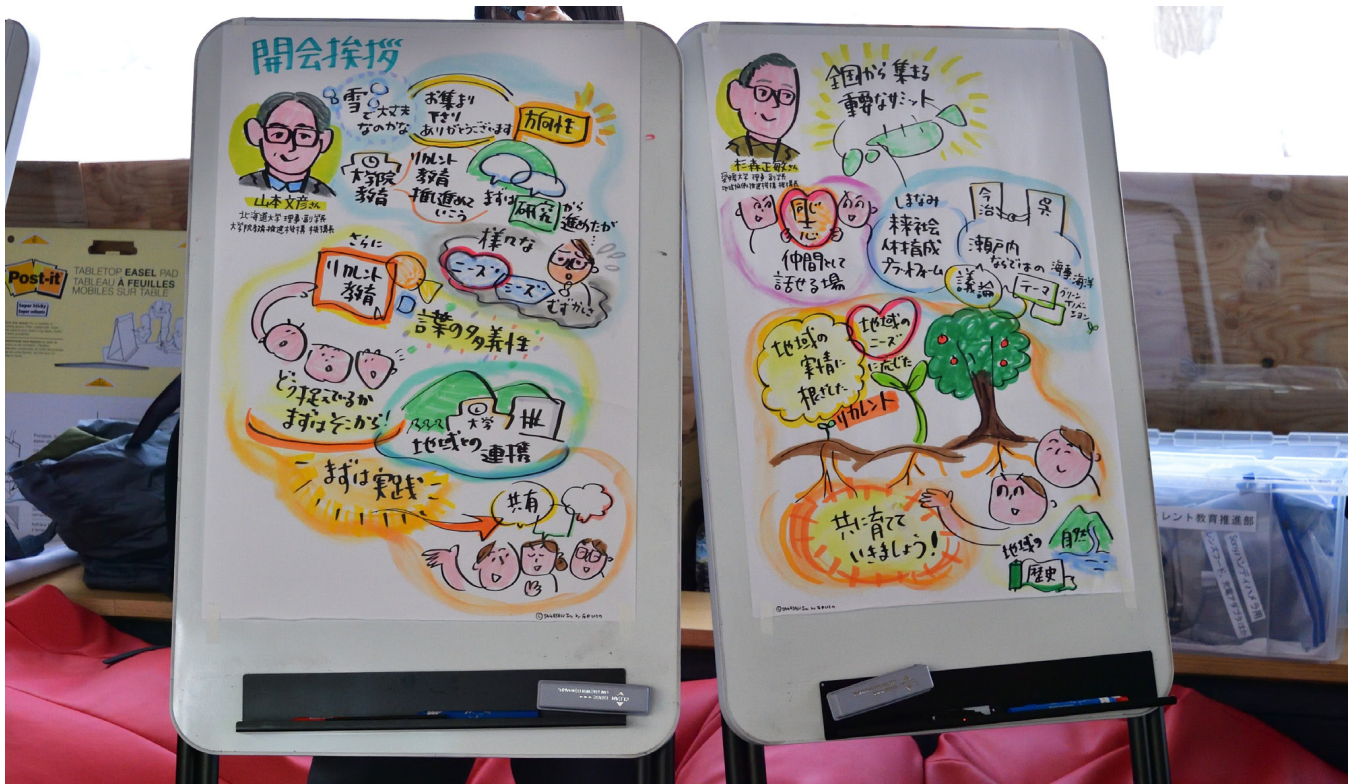
開会にあたって、山本文彦 北海道大学理事・副学長のと杉森正敏 愛媛大学理事・副学長が挨拶しました。



山本文彦 北海道大学理事・副学長



杉森正敏 愛媛大学理事・副学長



グラフィックコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

### 【事例報告：地方先進プログラムの展開】

「地方先進プログラムの展開」をテーマに、北海道大学、金沢大学、熊本大学、愛媛大学がそれぞれ行っているプログラムが紹介されました。それぞれの大学が行なっているプログラムの特徴や強みを知る機会になりました。また、紹介後には講評が行われました。参加人数は、42名でした。

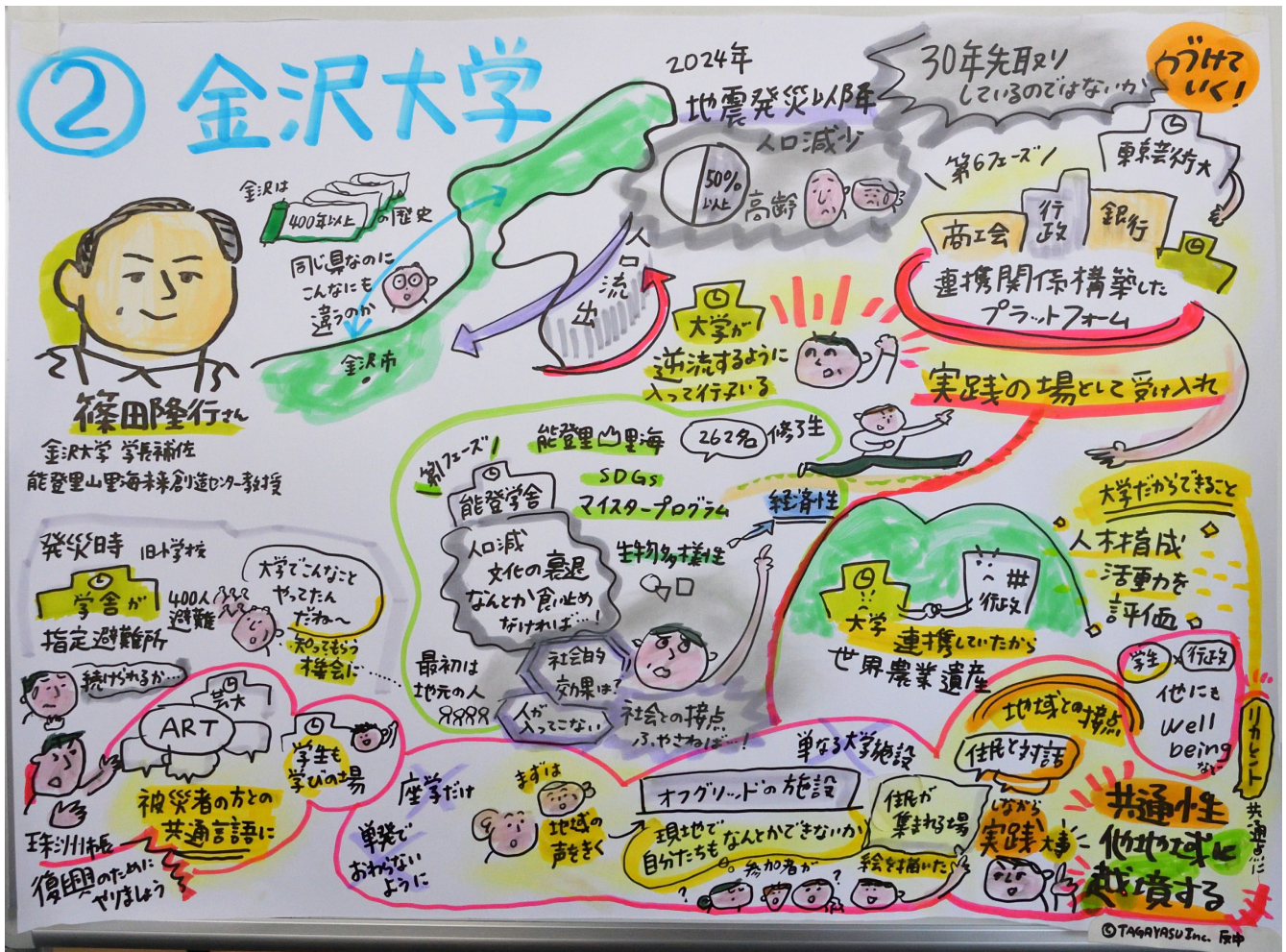


[事例報告2]

金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」

■ 出演：金沢大学 学長補佐（地域共創担当） / 能登里山里海未来創造センター教授 篠田 隆行

大学として地域課題に応える必要性が高まったことからリカレント教育による人材育成と地域共創に注力している、との報告がありました。金沢大学は文部科学省の採択を受け、「創造的復興」人材育成を目的としたリカレント教育推進体制を構築し、産業界、大学、行政、金融機関が連携するプラットフォームを設置しました。



グラフィックレコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

[事例報告3]

熊本大学「未来創造塾/共創学環」

■ 出演：熊本大学 副学長(地方創生・地域連携担当)/研究開発戦略本部 地域連携戦略部門長 金岡 省吾

熊本大学の取り組みは地域の小規模事業者（例：ラーメン屋、味噌屋）を「イノベーションの苗床」として育て、そこから多様な化学反応を起こして越境的な連携（都市圏企業や高校・高校教員の参画）を促すエコシステムづくりを目指している、との報告がありました。



**熊本市「未来創造塾」～地域課題をビジネスで解決するCSV人材の育成～**

熊本市「未来創造塾」は、地域課題をビジネスで解決するCSV人材の育成を目的として、熊本市と熊本大学が連携して取り組んでいる。この取り組みは、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。

**2030年を見据えた戦略的な目標**

熊本市「未来創造塾」は、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。この取り組みは、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。

**3. 教育機軸の強化（共創学環）**

熊本市「未来創造塾」は、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。この取り組みは、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。

**4. 小中高連携事業の推進**

熊本市「未来創造塾」は、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。この取り組みは、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。

**学びの手帳～将来的な学びと地域による連携～**

熊本市「未来創造塾」は、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。この取り組みは、熊本市の地域課題を解決するための重要な役割を果たしている。



グラフィックレコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

[事例報告4]

愛媛大学「地域創成イノベーション育成プログラム」

■出演：愛媛大学 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター 副センター長 正本 英紀

自治体での約30年の実務経験を背景に、産学民官連携を重視して地域課題を現場で解決してきた経緯について報告しました。県庁では財政や人事の内業よりも外回りの現場対応に多く携わり、NPOや企業、大学と協働して事業を進めてきたこと、サテライトオフィスを活用して遠隔での連携も行ってきたことを紹介しました。



地域ニーズ調査の準備 (R3-) 愛媛大学

開取調査の実施方針及び!

| 年度   | 調査員数 | 開取件数 | 開取件数 |
|------|------|------|------|
| 2021 | 52   | 56   | 112  |
| 2022 | 71   | 107  | 305  |
| 2023 | 124  | 190  | 456  |

地域ニーズ調査の開取件

① GX・DXなどの産業、経営に関する合意形成やイノベーションマッピングを可能とするハブ人材の創出  
 ② 未来社会構築につながるTown&Gown構想などの地域デザインを導ける社会の中堅層の充実

① 一地域特化型リカレントプログラムへの反映  
 ② 一地域特化型リカレント教育プラットフォーム構築



グラフィックレコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

## 【講評】

■ 出演：島根大学 地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン部門長 准教授 丸山 美子

各大学がそれぞれの地域資源や課題に応じたプログラム設計、学内外の連携、受講者の多様性を活かした学びを実践しており、これらは地域共創型プログラムを通じた地方大学のリカレント教育が日本の地域の未来を育む力を持っていることを改めて示していました。多様な事例から多くを学び、自分自身も引き続き学び続けたいという感謝と期待を持って発表を受け止めました。



## 【セッション2】

### 【ライトニングトーク】

参加大学の代表者や一般参加者がライトニングトークを行いました。



## 【事例報告：道内のリカレント教育・地域連携の状況】

北海道内のリカレント教育地域連携の状況として、札幌市まちづくり政策局ユニバーサル推進室、北海道国立大学機構・小樽商科大学、北海道大学医学研究院、北海道大学高等教育推進部、北海道大学広報・社会連携本部社会連携部門から5つの事例の紹介がありました。北海道が行なっているリカレント教育を、道外からの参加者に紹介する機会になりました。参加者は、43名でした。

## [事例報告1]

### 札幌市×北大連携事例-「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップの開催

■ 出演：札幌市まちづくり政策局 ユニバーサル推進室 推進担当課長 松原 卓也

ワークショップは札幌市が進める共生社会に向けた取り組みなどを目的に、北海道大学リカレント推進部と連携し開催した、との報告がありました。北海道大学との連携は、ワークショップの進め方について北海道大学に相談したことがきっかけで、ワークショップは4つで構成されていた、とのお話がありました。



#### ワークショップの概要

- 日時：令和7年12月13日（土）13：00～16：30
- 協力：北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部  
共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム(ささプロ)  
北海道LSPファシリテーターズ
- 目的：①共生社会の実現  
②年齢や性別などレゾのブロック
- 参加者：25名（札幌市内のあった86名の...

#### 創造ワークセッションの流れ

|                                     |  |  |   |
|-------------------------------------|--|--|---|
| 1                                   | 2  | 3  | 4   |
| スキルビルディング<br>レゾブロックを使った表現に慣れる導入ステップ | 経験や価値観の可視化<br>「こんな共生はちよっと違う」をテーマに、各自の経験や価値観を形にする | 個人モデル制作<br>「私にとって最適な心地よい共生」を制作。自身の思いを具現化 | 共有モデル構築<br>個人モデルをグループで組み合わせ、「私たちが持つ最適な共生」として統合・発表 |

## [事例報告2]

### 自治体様との連携の深化に向けたプラットフォームの設立について

■ 出演：北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門 特任准教授 中村 健吾

北海道大学は「2030ビジョン」で教育・研究を社会に広げ地域課題解決を図ることを掲げ、自治体様と北大全体での組織的な連携の深化に向けて昨年「北海道大学・自治体連携フォーラム」を設立しました。自治体様との連携に関わる様々な領域の教員・研究者とその事例を見える化し、自治体様からの相談を受けるワンストップ窓口を設置し、具体的なマッチングを試行している、との報告がありました。



#### 【フォーラム】趣旨 ※6/21シンポジウム投影資料

人口減少が進む中で、これまで以上に多様な課題が山積  
自治体単独では解決が困難な課題も顕在化  
教育・研究を社会に広げ、地域課題の解決に貢献することは、  
約150年にかけて北海道とともに発展してきた大学の真務  
**[Extension]**  
その真務を果たすためには、本学全体で組織的につながり、  
効果的な連携を推進する「土台」を形成することが必要

#### 【フォーラム】価値 (九たま案) ※赤字部分

### 「北海道をまるごとキャンパスに」

全道をフィールドにして、自治体、教員、学生が互いを活かし合い、育みあう形をとらねる

【北大・自治体連携フォーラム】上記実現に向けたマッチング・コーディネート・関係者間の橋のつながりづくり



## [事例報告3]

### ユニバーサル・ユニバーシティ構想とHumanior-“両利き”のリカレント教育に向けて

■ 出演：北海道国立大学機構/小樽商科大学 商学研究科 准教授 泉 貴嗣

タイトルの「両利き」は道内と道外の双方を意味しています。ユニバーサル・ユニバーシティ構想は小樽商科大学が主体で、Humaniorは機構が企画する事業です。ユニバーサル・ユニバーシティは、3つのプラットフォームで構成され、HumaniorはEMBA的なプログラムで、特に「人間性」を育む学びを重視しています、との報告がありました。



ユニバーサル・ユニバーシティ構想のイメージ

小樽商科大学では「2030年までに高等教育に触れられない北海道民の数をゼロに」を掲げ、対面とオンラインで学べる「ユニバーサル・ユニバーシティ構想」を始動

- 進学支援型PF**
  - 夜間社会人試を利用した進学機会の提供
  - 地元で働きながら、大学へも進学できる仕組み
  - 自治体・企業との連携による奨学金
  - 地域に即する人材の育成
  - 学びを継続するための学び支援体制の構築
- リカレント教育型PF**
  - リカレント教育を利用した地域で働く人たちのキャリアアップ支援
  - 「すきま時間」を活用した観光やITスキル 就職講座など
- 教養教育型PF**
  - 単位認定制度を利用した企業員への大学履修の提供
  - オンライン教材を利用した広範囲知識提供

自治体&企業連携と教育プログラムの提供

【自治体連携×職業学習（人材育成支援）】  
産学官ビジネスセミナー 江刺町  
～伝統から生まれる新しい価値～  
7.26 自 江刺町文化会館

【連携×産官学連携（人材育成支援）】  
2024.12.15 15:00-18:30  
その時あなたはどう？  
GAS

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

## [事例報告4]

### データで見る北海道の医療AIリカレント教育：医療AI開発者養成プログラム（CLAP）受講状況

■ 出演：北海道大学 大学院医学研究院 特任講師 唐 明輝

北海道大学では医療AIの基盤として大学側の「ヘルスケアAIXイノベーションセンター（HAIXIC）」が教育・研究を推進し、医学、情報科学、薬学、保健学の教員が連携して、病院側の「医療AI研究開発センター」が臨床に近いAI研究を統括しており、これら二つのセンターが連携して人材育成を行っている、との報告がありました。



北海道大学における医療AI研究開発基盤

北海道大学ヘルスケアAIXイノベーションセンター(HAIXIC)

HAIXICの連携体制

北海道大学ヘルスケアAIXイノベーションセンター(HAIXIC)と連携する機関

北海道大学 医学部 医学AI研究開発センター

CLAPの歴史

2020.9 2021.4 End of MEXT Project 2025.4

博士コース(4年)  
対象:北海道大学大学院 医学部博士課程大学院生

インテンシブコース(1年)  
対象:一般向け(高卒以上)

インテンシブコース(1年)  
対象:北海道大学の大学院生

リカレント教育コース(2年)  
対象:一般向け(高卒以上、日本在住)

2025.4から、インテンシブコースを改題し、北海道大学内部向けにし、リカレント教育コースを増設

専門講師科目「医療AI概論(1年)」  
対象:北次の学部生2年次以上

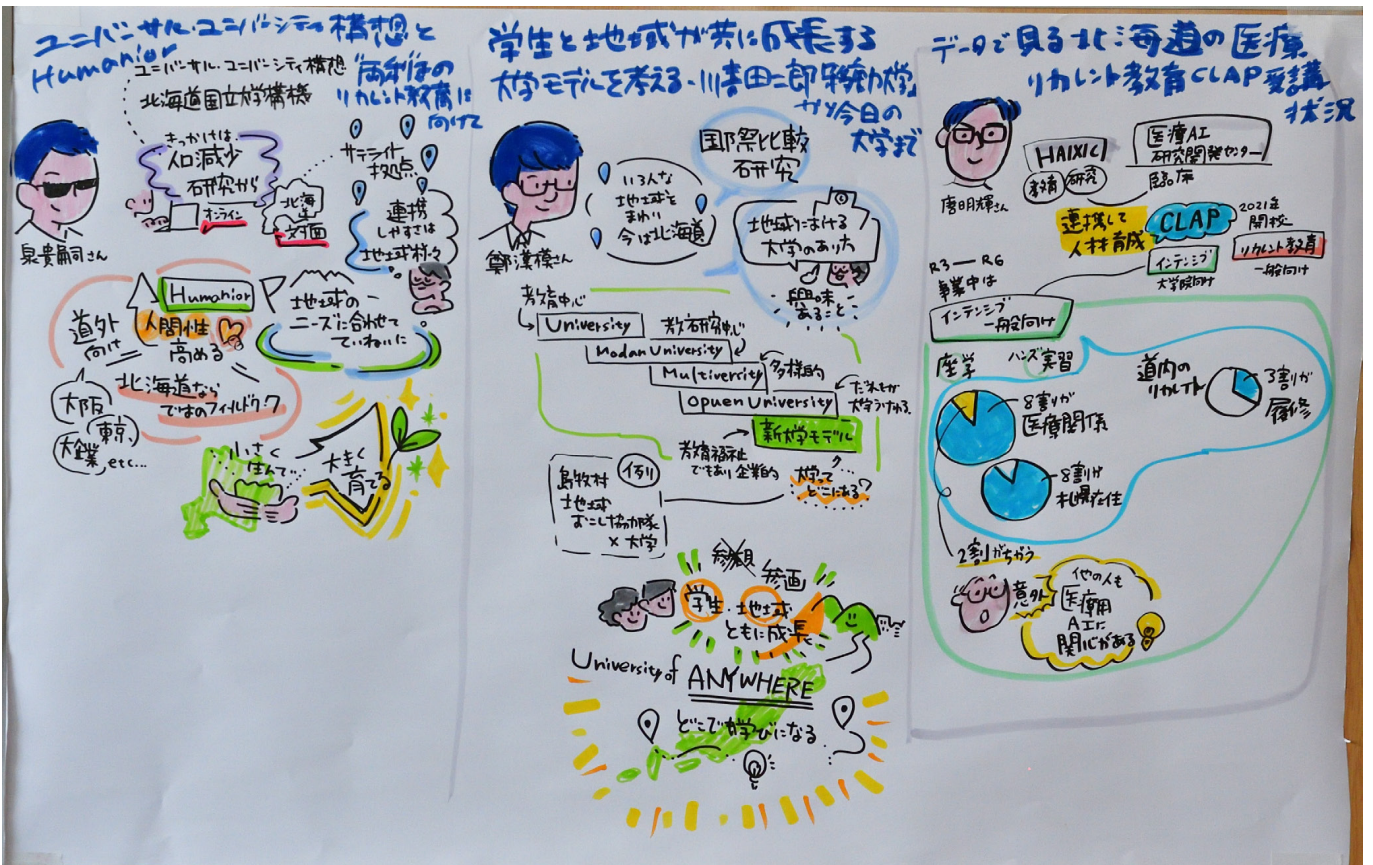
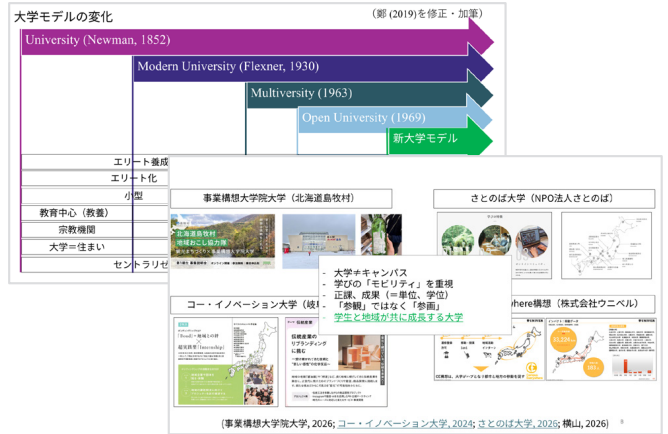
HOKKAIDO UNIVERSITY

[事例報告5]

学生と地域が共に成長する大学モデルを考える：川喜田二郎「移動大学」から今日の大学まで

■ 出演：北海道大学 高等教育推進機構 講師 鄭 漢模

大学は歴史的にいくつかのモデルを経て変化して来ましたが、現代の新しい大学モデルは、Open Universityと共通して、市民を養成する役割を持ちながら、少数精鋭的側面や教育と福祉・企業性を併せ持つような特徴があり、これからは「University of ANYWHERE」という概念が重要になる、との報告がありました。



グラフィックレコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

## 【セッション3】

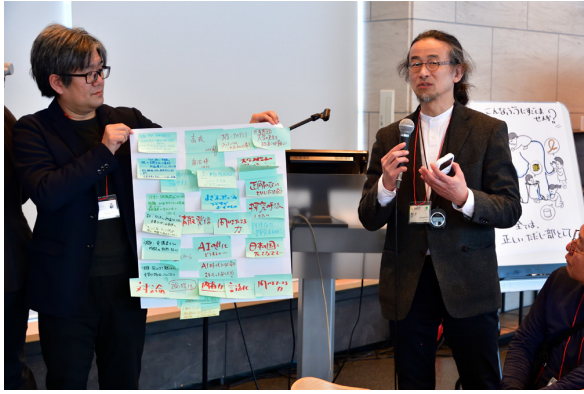
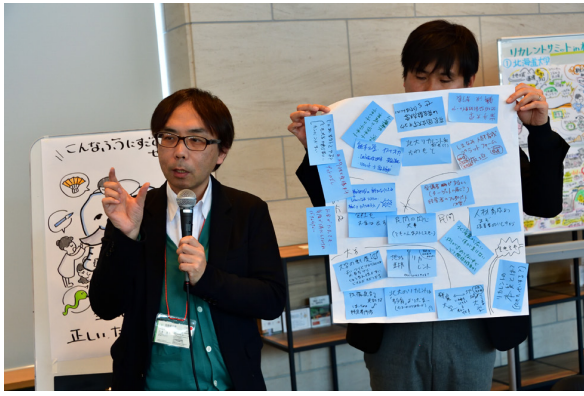
### 【ワークショップ】

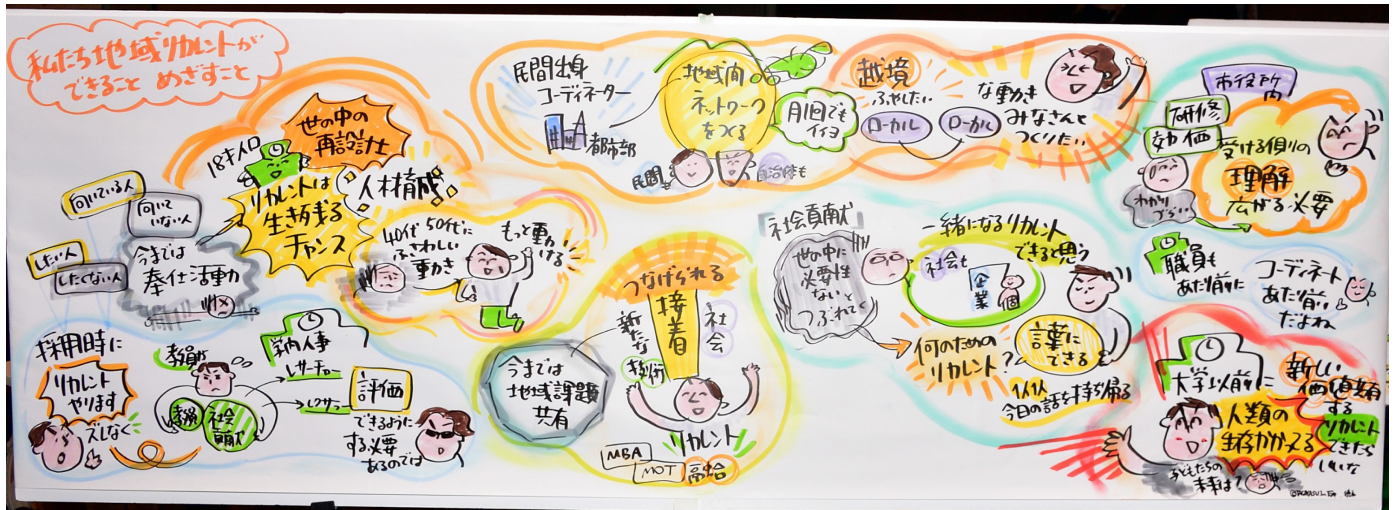
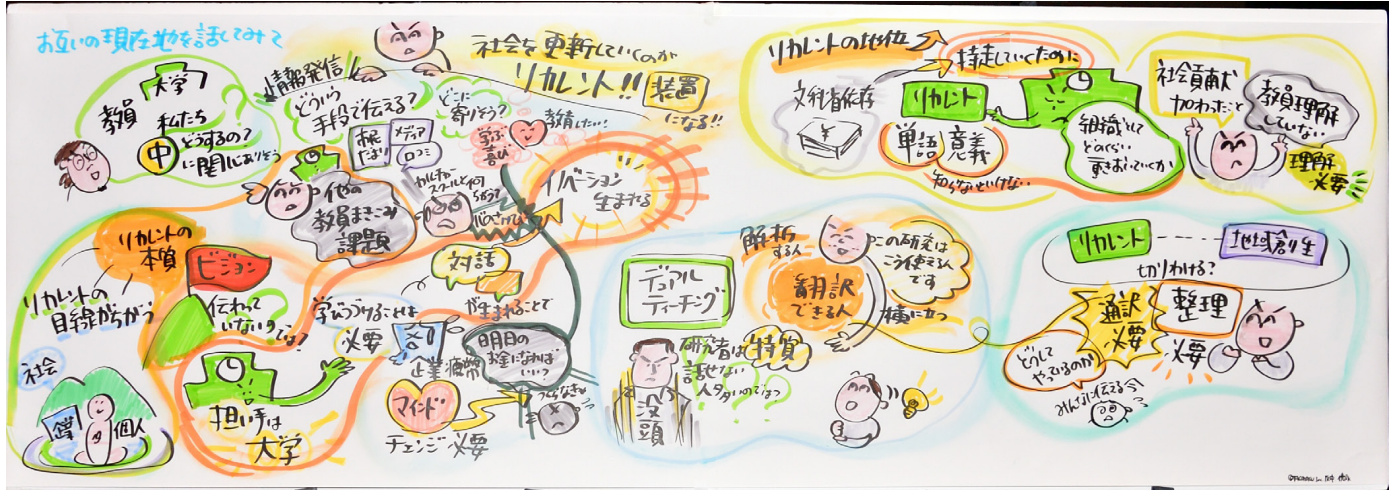
「地域共創型プログラムの現在地／私たちはどこへ向かう？」と題したワークショップを行いました。6つのグループに分かれた参加者は、各人の活動の内容や抱えている問題点を共有しました。その後、大学だからできる地域連携のあり方や、地域課題解決に向かうためのリカレント教育についてディスカッションを深めました。ワークショップの参加者は32名、見学者は5名でした。

《モデレーター》

- \*グループ1：川本 思心（北海道大学）
- \*グループ2：鄭 漢模（北海道大学）、中村 健吾（北海道大学）
- \*グループ3：種村 剛（北海道大学）
- \*グループ4：正本 英紀（愛媛大学）
- \*グループ5：槇原 晃二（広島大学）
- \*グループ6：丸山 実子（島根大学）







グラフィックレコーディング作成 株式会社たがやす 反中 ひろの 徳永 みきな

## 【閉会挨拶】

閉会にあたって、板垣義男しなみ未来社会人材育成プラットフォーム会長と榎原晃二広島大学参事が挨拶しました。



板垣義男 しなみ未来社会人材育成プラットフォーム会長



榎原晃二 広島大学参事

■ウェブサイト

2025.12.25 イベント告知

**[1/28水開催]リカレントサミット in 札幌:地域共創型プログラムの実践と展望**

地域と連携したリカレント教育・社会人教育の取組を全国的な視点から共有し、今後の地域共創型プログラムの展望について議論することを目的として、「リカレントサミット in 札幌」を招待制で開催します。

地方には人口・経済や自然環境などの多様な課題があり、地方大学にはそれらに対応する人材育成を担う責務があります。一方で、より実情にあった育成プログラムを実現するには大学だけでは十分ではありません。大学と自治体・地元産業界と連携することが必然となっています。

このような地域共創型プログラムは、全国の地方大学で実践が積み重ねられつつありますが、それらの課題や先進的事例を共有する機会は十分ではありませんでした。

そこでリカレントサミットでは、北海道大学をはじめ、熊本大学、金沢大学、愛媛大学による取組事例の紹介や、道内におけるリカレント教育・地域連携の取組報告、ならびにワークショップを通じて、地域共創型人材育成の現在地と今後の方向性を考える機会とすることに致しました。



**開催情報**

- ・開催日: 2026年1月28日(水)
- ・開催地: 北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウメインラウンジ  
(北海道札幌市北区北11条西8丁目 地下鉄南北線北12条駅 徒歩9分)
- ・参加方式: 招待・事前登録制・無料(御関心のある方は末尾のお問い合わせ先にご連絡ください)
- ※参加上限に達したため全セッションの登録を終了しました。ありがとうございます(2026/1/20)



会場となるエンレイソウ



メインラウンジ

**実施組織等**

- 主催: 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部  
しまなみ未来社会人育成プラットフォーム
- 共催: 愛媛大学 地域協働推進機構・広島大学 地域連携部
- 協力: 北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門

**会場運営事務局:**

- 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部
- お問合せ先: Reh-office@grad.hokudai.ac.jp rec\_office@m1.hokudai.ac.jp
- ※お電話でのお問合せは受け付けておりませんのでご了承ください

■プログラム (A4、両面カラー)

**リカレントサミット in 札幌**  
～地域共創型プログラムの実践と展望～

「リカレントサミット in 札幌」は地域と連携したリカレント教育・社会人教育の取組を全国的な視点から共有し、今後の地域共創型プログラムの展望について議論することを目的として開催します。

■開催日時: 2026年1月28日(水)  
■会場: 北海道大学 オープンイノベーションハブ エンレイソウ メインラウンジ

| プレセッション     | 1月27日(水) 16:00～17:30   |
|-------------|--|
| 9:30～9:45   | <b>開会挨拶</b><br>山本文彦 (北海道大学 理事・副学長/大学院教育推進機構 機構長)<br>杉森正敏 (愛媛大学 理事・副学長/地域協働推進機構 機構長)  |
| 9:45～12:00  | <b>事例報告: 地方先進プログラムの展開</b><br>1) 北海道大学「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」(他 川本 恵心 (北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部 部長))<br>2) 金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」(篠田 隆行 (金沢大学 学長補佐(地域共創担当)/先端科学・社会共創推進機構 教授))<br>3) 熊本大学「未来創造塾・創学塾」(金岡 省吾 (熊本大学 副学長(地方創生・地域連携担当)/研究開発戦略本部 地域連携戦略部門長))<br>4) 愛媛大学「地域創生イノベーター育成プログラム」(正本 英紀 (愛媛大学 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター 副センター長))<br>講師 丸山 実子 (鳥根大学 地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン部門長 准教授)  |
| 12:00～13:00 | 昼休み  |
| 13:00～13:15 | <b>ライトニングトーク</b> (参加全組からの一言活動紹介)   |
| 13:15～14:00 | <b>事例報告: 道内のリカレント教育・地域連携の状況</b><br>1) 札幌市・北大連携事例「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップの開催 (松原 卓也 (札幌市 まちづくり政策局 ユニバーサル推進室 推進担当部長))<br>2) 自治体様との連携の深化に向けたプラットフォームの設立について (中村 健吾 (北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門 特任准教授))<br>3) ユニバーサル・ユニバーシティ構想とHumaniora ―「両利き」のリカレント教育に向けて (泉 貴嗣 (北海道大学 機構 小樽医科大学大学院 医学研究科 准教授))<br>4) データで見る北海道の医療AIリカレント教育: 医療AI開発者養成プログラム(CLAP) 受講状況 (唐 明輝 (北海道大学 大学院医学研究科 特任講師))<br>5) 学生と地域が共に成長する大学モデルを考える―川喜田二郎「移動大学」から今日の大学まで (郷 漢模 (北海道大学 高等教育推進機構 講師)) |
| 14:00～14:15 | 休憩   |

主催: 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部/しまなみ未来社会人育成プラットフォーム  
共催: 愛媛大学 地域協働推進機構・広島大学 地域連携部  
協力: 北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門

|             |   |
|-------------|---|
| 14:15～15:30 | <b>ワークショップ前半: 地域共創型プログラムの現在地</b>                              |
| 15:30～15:45 | 休憩  |
| 15:45～16:45 | <b>ワークショップ後半: 私たちはどこへ向かう?</b>                                 |
| 16:45～17:00 | <b>閉会挨拶</b> 板垣 義男 (しまなみ未来社会人育成プラットフォーム 会長)<br>横原 晃二 (広島大学 参事) |

【司会】樺村 剛(北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部 特任教授)  
【ワークショップでのグラフィックレコーディング】反中 ひろの(株)がやす ビジュアルプラクティショナー)

**開催にあたって**

**山本文彦**  
北海道大学 理事・副学長/大学院教育推進機構 機構長

北海道大学は、2005年度から開講している「科学技術コミュニケーター養成プログラム(CoSTEP)」を筆頭に、2017年度開講の「ディスティネーション・マネージャー育成プログラム」などの社会人も受講できる教育プログラムを地域に対して提供して参りました。

こうしたリカレント教育の更なる推進を図るため、本学の中期ビジョンである「HU VISION 2030」において指針を定めるとともに、2022年度には「リカレント教育推進部」を設置しました。また、自治体との連携によって地域課題に対応するために、2025年度には「北海道大学・自治体連携フォーラム」を設立しました。

今回は本学と同様に地域社会のニーズを踏まえた人材を育成するため、地域の企業や地方自治体等と連携したリカレント教育プログラムを創出している愛媛大学及び広島大学からのお声掛けを頂き、また、地域において先進的なプログラムを推進している金沢大学や熊本大学からの御参加頂く形で実務者サミットを開催する運びとなりました。

社会人教育への理解も進んでいる地方において、プログラムの一環で働く実務担当者は様々な困難に直面していると推察します。このサミットにおいて、北海道をはじめ、北陸・中国四国・九州までの担当者が一堂に会し、取組やノウハウを共有することで、地域共創型リカレント教育の更なる展開に役立てていただければ幸いです。

**杉森正敏**  
愛媛大学 理事・副学長/地域協働推進機構 機構長

愛媛大学では、地方創生のリーダーになれる人材である地域専門人材を育成するためのリカレント教育プログラムとして、「地域創生イノベーター育成プログラム」を2017年度から開講し、2022年度以降はDX・GX・レジリエンス・イノベーションマップに加え、さらには海洋・海事などの新たな事業を大胆に取り入れるながら「地域イノベーター」の育成に取り組んで参りました。

また、これと合わせて、広島大学、鳥根大学の協力の下、未来社会構築のための新たな人材育成の本部、産学官金28団体で結集した「しまなみ未来社会人育成プラットフォーム」が2024年度に発足することとなりました。

地方国立大学において独自のリカレントプログラムを実施している担当者が直接集まり、率直な意見交換や情報共有を行う貴重な場を設けていただいた北海道大学の皆様にも御礼申し上げますとともに、当日のサミットに参加した各々のリカレントプログラム担当者の皆様から得られる成果について期待したいと思います。

**津賀一弘**  
広島大学 理事・副学長/学術・社会連携室 オープンイノベーション部長

広島大学では、Town(まち)とGown(大学)が長期的なビジョンを共有し、地域や企業が巻き込みつつ、社会変革を伴う地方創生に取り組む准産官の新たな連携モデルであるTown&Gown構想を推進しており、2023年10月には、構想の推進にともな取り組む「地域イノベーター」の育成に取り組んで参りました。

この構想を基幹として、本学においては、2024年度以降、愛媛大学、鳥根大学の協力を得ながら人材育成のための地域プラットフォームの構築や、広島県民市・愛媛県今治市を会場とした「海洋・海事」及び「カー・コンピュータ」の分野に重点をおいたリカレントプログラムの創出について支援を行って参りました。

また、本学では、Town&Gownパートナーである広島県民市に本年Town&Gown Officeを設置しており、海洋・海事人材の育成の一環としてリカレント・スキルプログラムの実施も検討していることから、今回のサミットにおいて、担当者間相互が各大学や地域における様々な取組事例の紹介や課題の共有に期待したいと思っております。

17

「リカレントサミット in 札幌」のダイジェスト動画とセッション1は北海道大学リカレント推進部のYouTubeにてご覧いただけます。

**【ダイジェスト動画】**

<https://www.youtube.com/watch?v=9fzq-0POxD8>



**【セッション1動画】**

<https://www.youtube.com/watch?v=-YDU89K7qV4>



## リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望

発 行 2026年3月

編 集 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部  
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
北海道大学高等教育推進機構  
TEL 011-706-5252/011-706-6870  
e-mail:rec\_office@ml.hokkaido.ac.jp

発行者 有限会社オールプロデュース  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 あおいビル8階  
TEL 011-252-6930 FAX 011-251-6560

印 刷 株式会社東和プリント

